



■■■ 受賞3団体の活動報告

西本由美子・ハッピーロードネット理事長（福島県広野町）



桜吹雪舞う古里に

活動する生徒がある。一つは高校校長が連
 合会副会長の要職をつとめて、地元で
 就職が不安な地域だから、大人を驚かす
 といふと、東日本大震災後思いをなやませ
 ては、全国規模に海外からも参加が来
 ている。

元来、小町には子どもが多い。震災時は
 家族を失った子どもも多いが、震災後は
 美しい里であつてこの国だ。原発は十人
 十色のええが、住んでいふ教えた者で
 小町に住んでゐる。だから、子どもとど
 ころか、住んでゐる。

住んでゐる。住んでゐる。住んでゐる。

三井文博・アーキペラゴ代表理事（高松市）



園児に芸術士派遣

[illegible]

村上純志・A I P事務局長（福岡市）



ITで課題を共有

「ト」を「用」した地域で、コミュニティの中心を占める。08年か始まった。まず集まればつづいて、福岡市・市の繁華街、カブフェを一つひとつ、そしてIT機器、使っているようにして、IT機器、情報を発信した。その仕組みを作業を、社会意識は多岐多岐、財政問題も、あつて行政に頼れる時代では、解決は、この仕組みが必要だと考えた。自分のこと、思っていること、総計では、はなはだ、思っている方法だ。

15年から始めたところ、トサナでは、例えば、地域に人が多くなると、IT機器を投資する、その所も、トサナで確認するし、必要費用を掛け集める、その仕組みを、トサナで、

「ト」

共感から連帯へ

「住民つなぐ場」探る

敗戦直後の地方新聞紙「西通通信」は「第一回新生大生大会」の記事に、シボウキを月17日都内のホテルで開催した。人口が急増しきる支那に際して、地づくりの重要性が増している。又や知恵も来ようとする意気交換機だった。司会者は伊藤信二（元岡田通信社東京支社員）で、シボウキの華では、国ロッキンギス（アキベ）特別が話術報告をした。

別冊のハビビトロ
ネット・福島の西本由子理事は、「国道沿いの取組で2万人の難民を抱える市組で百鬼を舞第1示したが、民が踊りたがりたてに桜交迎へていふ」と語った。

漢学委員長張國中・四

「第四回の村長選挙事務局長はバツヤネットと課を

委員計四団体推薦、一席落着いて、過半数を確保した。三団体推薦の候補は、団体は三、個人は二、合計五名で、活発な運動を展開し、皆当選、子育て支援は多岐で、地域をよりよきものにかつていく。

取りしレイアウトや資金を籌る資金の活用を説明し、報告をうけ、わがまちずみ会と並行して進めることも重要とした。

後半は賞状、準大賞の代表と通達委員会、地域で代表と通達委員会、テーマに討論、大賞の都府県代表、パトナーズ代表、新

聞の各団体の代表は、若

インターネットのニュースサイト「47NEWS」に「地域再生大賞」のページを設けています。シンポジウムでの活報告や、パネル討論の詳しいやりとりを紹介しています。第1回からの受賞団体の活動内容などもご覧になれます。

[illegible]

「投資」は、開港場再建本質は、次の並列で示す、切替の形勢（後援）に基く（五十音順）。

- ①協賛：反法西斯、中日本高速道路、西日本高速道路、二重産業金融公庫、日本たばこ産業（J.T.B.）、日本取引所グループ（J.P.X.）、東日本高速道路（三井住友海上火災保険）、ゆづり屋、銀行。
- ②特別協力：金日本空輸、トヨタ自動車、日本航空。
- ③後援：厚生労働省、国土交通省、農林水産省、建設省、国土庁、国土利用委員会、国土庁生活文化政策部、地域経済生活文化政策部、小企業基盤整備機構、都府市庁機構、U.T.S.、内閣府、農林水産省。

協賛・後援団体